

平成 29 年度ユネスコスクール年次報告書

1. 学校概要

学校名 東京都立六本木高等学校 (※正式名称を記載)
種 別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫^{※注1}
 中学校 中高一貫^{※注2} 高等学校
 教員養成大学 専修学校、各種学校
 特別支援学校
 その他 (例: 小中高一貫)
所在地 〒 106-0032 ※注1 義務教育学校を含む ※注2 中等教育学校を含む

E-mail S1000289@section.metro.tokyo.jp/

Website <http://www.roppongi-h.metro.tokyo.jp>

幼児児童生徒数 男子 164名 女子 338名 合計 502名
幼児・児童・生徒の年齢 15歳～39歳

2. 報告期間

平成 29 年 4 月～平成 30 年 3 月

※報告書提出時点～平成 30 年 3 月末までの活動は、予定 (見込み) として記載ください。

3. 活動内容

※記入にあたっては、末尾の留意事項も確認ください。

(1) 活動の概要 (800 字程度+活動内容を表す写真数枚)

※チェック事項 1-1、2-1 に対応

本校は、「見つけて 磨いて 未来をひらく」を教育目標として、ESD の理念を教育課程に導入し、実践的な学習・探求の場と捉え、ESD の実践を通して生徒の共感力・協働力の育成を目標とした。

具体的には、今年度の取組として、生物多様性を柱に、①生物と自然環境に係わる活動、②水中生態系の再現に係わる学習を行った。

① 生物と自然環境に係わる活動

この活動は総合科目「海洋エコツーリズム」にて取り上げた。取組の狙いとしては、エコツーリズムの理念を理解し、生徒たちがいる同じ東京都の御蔵島に赴き、自然環境 (特に海洋)・歴史・風土・文化に触れ、より現実的な理解を深めさせることが目的である。事前学習には、海外生物専門家を市民講師としてお招きし、自然の多様性について学習した。実習先の自然環境・産業や社会生活については、本校教員が講義を担当した。また現地での海洋調査のため、参加者全員にシュノーケリング実習を行った。2泊3日の御蔵島での主な活動として、原生林トレッキング・海洋調査を実施した。

② 水中生態系の再現に係わる学習

この学習は総合科目「アクアライフ」にて取り上げた。取組の狙いは、減少していく都会の自然を取り戻す環境保護の見地から、ビーオトプやネイチャーアクアリウムという概念に基づき、実際に生徒たちに自然を身近なものと感じづけることである。

里山の再現については、3つの材質・条件を変えた水槽を用意し、温度・他生物の存在・飼育した黒メダカの生育等経過観察をした。その結果、里山の田土を敷いた陶製水槽の環境が生態系の確立ができたことが分かった。

ネイチャーアクアリウムに関しては、水草と魚が生物の循環の中でバランスを取っていることを学んだ生徒たちが、近年注目されている癒し効果を加えた水槽の製作に挑戦した学習だった。文化祭での展示に向けて、様式の異なる3つのアクアリウムを製作することを決めて、来校者にその人気を図ることとなった。水槽内での生態系のバランスと共に、芸術的センスも必要となる作品としての展示となった。文化祭当日は、3つの生徒製作の作品と共に講師の作品も展示し、多くの来校者が足を止めて眺めていた。また、日常の来校者や近隣の小学生・幼稚園児・保育園児が本校を訪れると必ずこの展示作品をととても楽しそうに眺めていた。

①-1



①-1 原生林トレッキング

①-2



①-2 海洋調査

②-1



②-1 里山の再現検証

②-2



②-2 ネイチャーアクアリの生徒作品

(2) 活動の詳細

① 活動内容

※チェック事項 1-2, 2-1 に対応

ア. 活動分野（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 環境	<input type="checkbox"/> 2. エネルギー	<input type="checkbox"/> 3. 防災	<input checked="" type="checkbox"/> 4. 生物多様性
<input type="checkbox"/> 5. 気候変動	<input type="checkbox"/> 6. 国際理解、文化多様性	<input type="checkbox"/> 7. 地域の伝統文化、文化遺産	<input type="checkbox"/> 8. 人権・平和
<input type="checkbox"/> 9. 健康・福祉	<input type="checkbox"/> 10. 食育	<input type="checkbox"/> 11. 持続可能な生産と消費	<input type="checkbox"/> 12. 貧困
<input type="checkbox"/> 13. エコパーク	<input type="checkbox"/> 14. ジオパーク	<input type="checkbox"/> 15. グローバルシチズンシップ教育 (GCED)	
<input type="checkbox"/> 16. ジェンダー平等	<input type="checkbox"/> 17. その他()		

イ. 活動を通して育みたい資質や能力（複数選択可）

<input type="checkbox"/> 1. 批判的に考える力	<input type="checkbox"/> 2. 未来像を予測して計画を立てる力
<input type="checkbox"/> 3. 多面的、総合的に考える力	<input checked="" type="checkbox"/> 4. コミュニケーションを行う力
<input checked="" type="checkbox"/> 5. 他者と協力する態度	<input type="checkbox"/> 6. つながりを尊重する態度
<input checked="" type="checkbox"/> 7. 進んで参加する態度	
<input type="checkbox"/> 8. その他(自由記入)	

ウ. 活動時間（複数選択可）

<input checked="" type="checkbox"/> 1. 教科の時間	<input type="checkbox"/> 2. 総合的な学習の時間
<input type="checkbox"/> 3. 特別活動等	<input type="checkbox"/> 4. クラブ活動
<input checked="" type="checkbox"/> 5. その他(自由記述 夏季休業期間での活動)	

エ. 使用した教材（書籍、ウェブサイト、パンフレットなど具体名）

書籍、ウェブサイトに関しては多種多様にわたる。
ご指導いただいた方々に関しては補助資料を参照のこと。

② ユネスコスクールとしての活動を各校の教育課程（指導計画）にどのように位置付けているか。指導内容を適切に定め、指導方法の工夫改善に努めているか。（200～300字程度）

※チェック事項 1-2, 1-3 に対応

ユネスコが推進する ESD 教育の観点について、本校の教育課程の教育活動や教科科目と関連づけて、その成果を年度末の校内の学習成果発表会で発表する。

（現状での関連づけの例）

生物多様性 : 海洋エコリズム アクアライフ 海洋生物学基礎 生活園芸
防災学習 : 防災学 防災キャンプ（東京都実施） 上級救急救命講習
青少年赤十字活動
国際理解学習 : 外国語（英語、韓国語、中国語） 歴史探訪（世界史）

- ③ 学校全体で組織的かつ継続的に活動に取り組める体制や環境をつくるため、どのような取組を行っているか。(200字程度)

※チェック事項 1-4 に対応

- (1) ユネスコが推進する ESD 教育の各観点を授業でどのように取り組むかを教科主任会を通じて、各教科会に連絡し検討をする。
- (2) ESD に関係する内容を含むボランティア活動・インターンシップ体験を抽出するよう、ボランティア推進委員会・進路部に指示している。
- (3) 東京都主催の防災キャンプの参加や救急救命講習などへ全校挙げて生徒への募集・参加を推進している。

- ④ ユネスコスクールとしての活動の質の向上のための学校活動の評価(内部/外部)の方法・具体的内容と、それによって明らかになった成果と課題。(200字程度)

※チェック事項 1-5 に対応

- (1) 平成29年度の学校活動の評価
- ①「海外エコツーリズム」東京都主催「科学の祭典」時のポスター発表にて、多くの来場者に説明し、質疑応答していた。
- ②「アクアライフ」本校文化祭の来校者による作品への人気応募状況
- (3) 成果と課題
- ①生徒たちの課題達成度と科目の成績とが関連づけられていない。
- ②外部評価を明確な数値化できてない。

- ⑤ ESD の推進拠点としての活動成果の発信方法・内容と、発信により得られた効果。(200字程度)

※チェック事項 2-2 に対応

- ①平成29年度は2つとも「科学の祭典」や文化祭にて外部に成果発表をすることができた。
- ②「アクアライフ」の作品は長期にわたって展示しているため、来校者も本校生徒・教員も見えて、本校の特色ある教育活動の一つという認識が浸透している。

- ⑥ 学校以外の団体との協働・交流・ネットワーク形成(地域コミュニティ、大学、ESD活動支援センター、ESDコンソーシアムとの連携など)

(200字程度)

※チェック事項 2-3 に対応

平成29年度は、初年度で港区ユネスコ団体との連携が始まったばかり。

- ⑦ 国内外のユネスコスクールとの交流・ネットワーク形成（200字程度）
※チェック事項 2-4 に対応

現状では交流・ネットワーク形成まで至っていない。

- ⑧ ユネスコスクールの活動による効果について、特筆すべき（特に強調したい）内容（例えば児童生徒、教員、カリキュラム・教授法、学校経営、地域・保護者との関係など様々な面でのポジティブな変化）（200字程度）
※チェック事項 2-5 に対応

- (1) 本校生徒たちが自分の学校がユネスコスクールとして外部で評価されたことをうれしいことと感じてくれ、自信を持って学ぶようになった。
- (2) 生徒たちが取り組む課題の発表の場が増えたことで、活動の範囲を広げることができた。
- (3) 教員向けの研修に教員が参加でき、学校経営上有効な機会となった。

- (3) 平成 30 年度の活動計画（200～400字程度）

- (1) 平成 29 年度の調査活動を継続したい。
- (2) 防災関係についても本校で取り上げている授業・活動があるので、その充実を図りたい。
- (3) ESD 教育につながるボランティア活動やインターンシップ体験を生徒に紹介し、参加人数を増やしたい。